

# 歴史研究所

The Iida City Institute of Historical Research

史料で読む  
飯田・下伊那の歴史  
3

## 山里南信濃の あゆみとくらし

飯田市歴史研究所



令和5年3月刊行

史料で読む飯田・下伊那の歴史3『山里 南信濃のあゆみとくらし』

## はじめに

飯田市歴史研究所は、平成14年10月に準備室が開設され、平成15年12月に正式に発足した。「現在及び未来の市民のために、歴史的価値を有する記録を収集し、保存して、広くその利用に供するとともに、歴史、文化等を科学的に調査研究して、これを叙述し、もって市民の教育、学術及び文化の向上発展並びに活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ことを目標として、調査・研究・市誌編さん・教育・出版活動を軸に多様な活動に取り組んでいる。

### 1 基本的な方向性と重点目標

リニア中央新幹線開通が現実化する中で、飯田・下伊那は大きな変容を迎えつつある。大学や国の研究機関等の誘致、航空機産業などの新たな産業の拠点化などは、この地域の生活や社会の基盤を大規模に変革させる可能性を持っている。一方で、地域全体で進む過疎化・少子高齢化は、豊かでかけがえのない歴史や文化を育んできた多くの集落や地区の存立を脅かしている。こうした中で、人びとの日々の営みを基礎とした歴史文化遺産(地域遺産)は今後の地域づくりの核となるものであり、それを収集、保存して地域に提供し、さらには調査・研究の成果を還元する取り組みを進めていく必要がある。

歴史研究所では、令和3年度(2021)から令和6年度(2024)を期間とする「第5期中期計画」を策定し、第4期中期計画における成果や課題を踏まえ、以下の重点目標を設定し、諸活動に取り組んでいる。

#### (1) 基本方針

- ① 地域遺産(古文書、歴史的建造物等)を調査・研究しその保存と公開を図ることにより共有財産として、その成果を市民に還元する。
- ② 戦争や災害、そして暮らしの記憶、また日々過去となりつつある現在を、オーラル、映像、写真などで記録し、歴史資料とすることをめざす。
- ③ 調査・研究は、飯田市を中心に、歴史的に密接な関係にあったことを踏まえ、広く下伊那の全域も対象とする。また、関連する諸地域も含めて包括的に活動を進める。
- ④ 歴史研究所は「地域史研究の拠点」に加え「地域遺産保全の取組」及び「地域連携」でも拠点となることを目指す。
- ⑤ 歴史研究所の取組の諸成果を地域市民や国内外に広く発信し、交流の相互拡大を図る。

#### (2) 重点目標

##### ① 地域アーカイブズ事業の拠点化

地域遺産の中核に位置づく地域アーカイブズ(地域史料)の調査・収集・整理を速やかに進め、保存や公開を図る。

##### ② 地域遺産の再発見

各地域に豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを地域遺産として再発見し、地域市民と共に、それらの調査・研究や未来への継承などに取り組む。

##### ③ 地域市民との連携

各地域で取り組まれている地域市民自らによる史料調査や地域の学習・研究活動と協働する。

##### ④ 地域史研究・地域遺産保全を通じた交流

歴史研究所は、地域史研究と地域遺産保全の拠点として、飯田・下伊那の史料保存機関や博物館・資料館、地域史研究団体との交流・連携を積極的に進める。

##### ⑤ 恒久的施設への移転

第5期中期計画期間中に、歴史研究所の施設や環境について、他機関との連携・協働に留意し、方向性を検討する。

## 2 基本的事業活動

### (1) 史料調査

個人の家や区、学校など地域に残された古文書・古記録などの文献史料調査、オーラル史料の収集、歴史的建造物・歴史的景観調査など史料調査活動を多様に進める。

### (2) 研究活動

史料調査活動に基づいて、基礎研究・基礎共同研究に持続的に取り組む。また、研究活動を促進させるため、地域史研究集会など各種の研究会を開催するとともに、その成果は『飯田市歴史研究所年報』などで公表する。

### (3) 教育・普及活動

調査・研究活動の成果を地域市民へ不断に還元するために、また地域市民の学びの場を提供するために、「飯田アカデミア」、「地域史講座」、「各地区の公民館や高校、小中学校への出前講座」、「ゼミナール」、「公開史料調査」等の活動を実施する。

### (4) 研究者養成と地域連携

歴史研究所は、飯田・下伊那の地域史研究の更なる活性化を目指し、市民研究員制度を柱とした研究者養成や、地域史研究団体との協働にこれまで以上に取り組む。

### (5) 地域史編さん・出版事業

地域史料集（『飯田・下伊那史料叢書』）、「単位地域の全体史」、「テーマごとの地域史」の3種類を柱として、地域史編さん・出版事業に取り組む。

## 3 沿革

平成 9 年	4 月	市制 70 周年に向けた市誌編さん事業開始
平成 13 年	4 月	事業の見直しを決定
	7 月	飯田市長から飯田市誌編さん事業有識者会議に対し、飯田市誌編さん事業について諮問
平成 14 年	4 月	飯田市誌編さん事業に関する答申
	8 月	飯田市誌編さん事業 今後の方向（中期的計画）について
	9 月	任期付研究員条例制定
	10 月	地域史研究事業準備室設置 第 1 回地域史研究集会「語りつぐ飯田・下伊那の歴史」
平成 15 年	10 月	飯田市歴史研究所条例制定
	12 月 2 日	飯田市歴史研究所開所
平成 17 年	3 月	貴重書庫室整備
平成 19 年	7 月	飯田市歴史研究所実績報告書（2003－2006）作成（公表）
平成 20 年	3 月	飯田市歴史研究所第 2 期中期計画の策定（公表）
平成 22 年	11 月	『飯田・上飯田の歴史』（仮題）刊行計画の策定（公表）
平成 24 年	6 月	飯田市歴史研究所実績報告書（2007－2011）作成（公表）
	7 月	飯田市歴史研究所第 2 期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
	8 月	飯田市歴史研究所第 2 期実績の外部評価報告（公表）
	9 月	『飯田・上飯田の歴史』上巻刊行
	12 月	飯田市歴史研究所第 3 期中期計画（案）についての市民意見の公募

平成25年	2月	飯田市歴史研究所第3期中期計画の策定（公表）
	3月	『飯田・上飯田の歴史』下巻刊行
平成28年	8月	飯田市歴史研究所第3期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
	8月	飯田市歴史研究所第3期実績の外部評価報告（公表）
	12月	飯田市歴史研究所第4期中期計画（案）についての市民意見の公募
平成29年	4月	飯田市歴史研究所第4期中期計画の策定（公表）
	9月	歴史研究所移転（旧鼎東保育園）
令和2年	8月	飯田市歴史研究所第4期実績の自己点検・内部評価の実施
	9月	飯田市歴史研究所第4期実績の外部評価報告
令和3年	1月	飯田市歴史研究所第5期中期計画（案）についての市民意見の公募
	4月	飯田市歴史研究所第5期中期計画の策定（公表）

#### 4 施設の概要

〔場所〕 飯田市鼎下山538番地 〔構成〕 交流・閲覧フロア、研修室、研究室、事務室、書庫

#### 5 運営組織（令和5年4月1日現在）

所長、副所長（美術博物館副館長兼務）

研究部（所長兼）研究部長1（非常勤職員）、研究員1（正規職員1）、特任研究員3（会計年度任用職員）、調査研究補助員2（会計年度任用職員）、顧問研究員8（非常勤職員）、調査研究員9（委嘱）

総務係 総務係長、係員3（正規職員1、会計年度任用職員2）

#### 6 令和4年度事業内容

##### （1）調査研究活動

研究計画に基づき、基礎研究及び基礎共同研究（基盤調査・課題研究・単位地域研究）を行う。

##### ①基礎研究

研究員が個人で遂行する研究。基礎共同研究同様、研究員は毎年研究計画書を作成・提出し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則1年間。

研究テーマ	研究者
「小規模伝統都市・飯田の社会=空間構造」4	吉田 伸之（研究部長）
「村と戦争」の総合的研究	大串 潤児（顧問研究員）
森本州平日記を読む	加藤 陽子（顧問研究員）
飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究	田嶋 一（顧問研究員）
近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究	多和田 雅保（顧問研究員）
飯田下伊那の農協生活活動	安岡 健一（顧問研究員）
下伊那地域における身分的周縁に関する研究	吉田 ゆり子（顧問研究員）
近世信州伊那地域における村社会の構造—座光寺村を素材として—	羽田 真也（研究員）
近現代長野県下伊那地域を対象とする経済・経営史的分析	太田 仙一（研究員）
明治大正期の地籍史料群を用いた歴史的景観の研究	福村 任生（研究員）
養蚕地帯の地域社会構造と主体形成	田中 雅孝（特任研究員）

明治大正期、下伊那の文化結社の活動と他分野への展開	竹村 雄次 (特任研究員)
下伊那地域の満洲移民研究	齊藤 俊江 (調査研究員)
飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内 雅人 (調査研究員)
小学校の設置運営と地域の関わり 一日誌類の分析を中心に	多和田 真理子 (調査研究員)
近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究	千葉 拓真 (調査研究員)
満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究 —学校教育や役場等現場の関わりを中心に—	原 英章 (調査研究員)
戦争末期における飯田下伊那の動き —川路への豊川海軍工廠の疎開、農兵隊等—	原 英章 (調査研究員)
飯田市平和祈念館資料室 所蔵資料の歴史的調査	原 英章 (調査研究員)
山村の木材利用の手法に関する研究	樋口 貴彦 (調査研究員)
樽木役に関わる諸問題の検討	前澤 健 (調査研究員)
満洲開拓第二期五ヶ年計画と「中心人物」	本島 和人 (調査研究員)
青少年義勇軍送出と郡市教育会の戦時期と戦後	本島 和人 (調査研究員)
満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説	本島 和人 (調査研究員)
農業青年、楯操の歩み —自由大学から、江渡狄嶺、ヤマギンズムへ—	粟谷 真寿美 (市民研究員)
出征兵士と教師の軍事郵便 ～昭和13年の日中戦争期に語られたこと～	上河内 陽子 (市民研究員)
近世清内路の社会構造	坂本 広徳 (市民研究員)
戦前の下伊那における社会運動について	清水 迪夫 (市民研究員)
飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる	林 武史 (市民研究員)
ミチューリン運動の諸問題の研究 —菊池謙一を中心に—	壬生 雅穂 (市民研究員)

## ②基礎共同研究

研究員や特任研究員が研究代表者となって研究組織を構成し、共同で遂行する研究。研究計画書を作成し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則2～5年間。

基盤調査	A	史料所在状況調査	羽田 真也 (研究員)
	B	史料現状記録調査	羽田 真也 (研究員)
	C	オーラルヒストリー調査	田中 雅孝 (特任研究員) 竹村 雄次 (特任研究員)
	D	歴史的建造物調査	福村 任生 (研究員)
	E	歴史的公文書調査	太田 仙一 (研究員) 羽田 真也 (研究員) 竹村 雄次 (特任研究員)
	F	在外史料調査	吉田 伸之 (研究部長)
課題研究	A	小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的調査	多和田 真理子 (調査研究員)

	B	山里の分節的把握—阿智村清内路を素材として	吉田 伸之 (研究部長) 坂本 広徳 (市民研究員)
	C	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	吉田 ゆり子 (顧問研究員)
単位地域研究	A	飯田・上飯田	多和田 雅保 (顧問研究員)
	B	座光寺	羽田 真也 (研究員) 田中 雅孝 (特任研究員)
	C	川路	福村 任生 (研究員) 田中 雅孝 (特任研究員)
	D	山本	竹村 雄次 (特任研究員)
	E	鼎	太田 仙一 (研究員)

### ③飯田市地域史研究集会の開催

第 19 回地域史研究集会 令和 4 年 9 月 10 日(土)・11 日(日) 参加者延べ 244 人

満洲移民 — 下伊那から再考する —			
9/10	満洲移民を再考する		
	講演	近代日本の戦争 —森本州平日記から考える—	加藤 陽子 (顧問研究員)
	講演	日中戦争下の募集と送出 —地域指導者と下伊那の人々—	本島 和人 (調査研究員)
	報告	下伊那の中の満洲—原資料を読み解く—	齊藤 俊江 (調査研究員)
9/11	自由 論題	明治 30 年代の飯田町文化の高まり —歌舞伎座新史料を中心に—	竹村 雄次 (特任研究員)
	報告	江戸時代後期の伊那地方における離縁と女性	塩澤 元広 (高森町歴史民俗資料館)
	満洲移民と向き合う		
	報告	満洲体験が人生の指針に —看護師として生きる—	橋本 珠子 (満洲移民体験者)
		沈黙を聴く —ドキュメンタリーの現場から—	手塚 孝典 (信越放送)
		想起と対話の「場」 —記念館レポート—	三沢 亜紀 (満蒙開拓平和記念館)

\*参加者内訳 1 日目オンライン 103 人・サテライト 35 人 2 日目オンライン 83 人・サテライト 23 人

### ④ワークショップの開催

6/18 (土)	コロナ禍のなかから生存の歴史を問う	会場：竜丘公民館 参加者：会 24on19 計 43 人
問題提起		田中 雅孝 (特任研究員)
遠山教育懇談会の 27 年		語り手 片町 国臣 (元高校教師) 聞き手 田中 雅孝

障がい者の在宅福祉を拓く	語り手 片桐 秀人 (社会福祉法人信濃こぶし会理事) 聞き手 栗谷 真寿美 (市民研究員)
飯田市役所のポルトガル語通訳として	語り手 長沼 映子 (飯田市ポルトガル語窓口相談員) 聞き手 氏原 理恵子 (飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課) 聞き手 稲垣 文子 (前飯田市公民館社会教育コーディネーター) 聞き手 本島 和人 (調査研究員) 聞き手 向山 敦子 (近現代史ゼミ)
満洲移民引揚から看護師としての歩み	語り手 橋本 珠子 (元飯田市立病院看護師) 聞き手 齊藤 俊江 (調査研究員)
住民主体の保健活動の実践	語り手 何原 弓紘 (元松川町保健師) 聞き手 上河内 陽子 (市民研究員)
コメント	安岡 健一 (顧問研究員)
コメント	山川 みやえ (大阪大学大学院准教授)

7/2 (土)	書評会 本島和人著 『満洲移民・青少年義勇軍の研究』	会場：上郷公民館 参加者：会 24on19 計 43 人
報告		太田 仙一 (研究員)
報告		上河内 陽子 (市民研究員)
報告		多田井 一子 (歴史研究所満洲移民研究ゼミ生)
報告		原 英章 (調査研究員)
コメント		齊藤 俊江 (調査研究員)
コメント		田中 雅孝 (特任研究員)
コメント		細谷 亨 (立命館大学准教授)
応答		本島 和人 (調査研究員)

12/3 (土)	山里社会における生業の多様化と個性の時代－近世・近代の下伊那地域－ 主催 JSPS 科学研究費助成事業基盤研究(A)「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」 共催 飯田市歴史研究所	会場：上郷公民館 参加者：会 25on31 計 56 人
報告	遠山谷の山地性集落の集落景観－焼畑地と家屋の関係について－	樋口 貴彦（調査研究員）
コメント		鈴木 利友（武庫川女子大学）
報告	下伊那郡清内路村と周辺地域における櫛生産	角和 裕子（世田谷区立郷土資料館）
コメント		町田 哲（鳴門教育大学）
報告	王子製紙による山林開発と遠山地域社会－地域経済への影響に着目して－	太田 仙一（研究員）
コメント		小島 庸平（東京大学）
遠山谷の集落と生業－近世和田村を中心として－		吉田 ゆり子（顧問研究員）
コメント		森下 徹（山口大学）

#### ⑤定例研究会の開催

開催日	内 容	担 当	場 所	参加者
4/9	飯田・下伊那の近世宿場町の町割を比較する	福村 任生（研究員）	上郷公民館	4 人
4/23	大正期における王子製紙の中部工場閉鎖と地域社会－長野県下伊那郡遠山地域に着目して－	太田 仙一（研究員）	鼎公民館	6 人
6/25	関口存男の疎開 －岸田國土との関わり－	柴田 明子	鼎公民館	会 8 On13
8/6	歌舞伎座新史料から見えてきた明治 30 年代の飯田町文化	竹村 雄次（特任研究員）	歴史研究所	10 人
3/4	日中戦争期の『胡桃澤盛日記』を読む	田中 雅孝（特任研究員）	歴史研究所	16 人
3/18	近世後期の大平街道と馬稼・駕籠稼	羽田 真也（研究員）	歴史研究所	10 人

#### ⑥飯田市歴史研究所年報の編集・刊行

『飯田市歴史研究所年報』第 20 号

分類	テーマ	執筆担当者
特集 暮らしのなかの景観－その歴史と継承		
	問題提起－《日常の景観》の再評価と再発見を目指して	福村 任生
第 1 部 景観の歴史	テリトリーオの営みが生んだ景観	陣内 秀信



と文化	—その再評価と継承の方法—	
—国際比較の視点から	アジアの「景」が生まれるとき	大田 省一
	コメント 絵図からみた暮らしの景観	吉田 ゆり子
第2部 魅力ある景観をのこす・つたえる	近世座光寺村の社会と空間—庄屋善右衛門家を中心に—	羽田 真也
	東京・葛飾柴又の文化的景観—調査の方法と課題—	中尾 俊介
	宮田宿の歴史的景観と保全の取り組み	小池 勝典
	古民家を地域にひらく	宮井 啓江
小特集 下伊那の宗教文化ネットワーク—松下千代と松尾多勢子を中心に—	趣旨説明 小特集「下伊那の宗教文化ネットワーク—松下千代と松尾多勢子を中心に—」に寄せて	羽田 真也
	松尾多勢子のネットワーク—歌会・平田国学・政治活動—	アン・ウォルソール 訳 竹ノ内雅人
	不二道の信者ネットワークと松下千代	宮崎 ふみ子
	コメント 下伊那発 これからの平田国学・不二道研究の可能性	竹村 雄次
	コメント 宗教者としての松下千代	粟谷 真寿美
	参加記 市村咸人の仕事から先へ	三ツ松 誠
	展示評 飯田市美術館トピック展示「伊那谷の富士信仰と旅—不二道信者松下千代と仲間たち—」	前澤 健
研究ノート	17世紀清内路村における年貢負担の推移	坂本 広徳
書評	本島和人著『満洲移民・青少年義勇軍の研究 長野県下の国策遂行』を読み、学びながら考えたこと	上條 宏之
史料で読む飯田・下伊那の歴史 13	黒田忠一の回想する「黒田騒動」—「黒田忠一翁聞書」より—	太田 仙一
調査報告	駒場上町の町屋建築	福村 任生
	明治期・下清内路の地籍復元	中尾 俊介 岩田 会津
	金子勇文書	太田 仙一
新刊紹介	座光寺 歴史に学び地域をたずねる会編『古老が語った我が歩み 語り継ぎたい「昭和・平成の記憶」』	田中 雅孝
	泰阜村古老は語る実行委員会編『古老は語る』第3集	竹村 雄次
	竜丘公民館 竜丘児童自由画保存顕彰委員会ほか編『木下紫水物語 全国から注目された竜丘小学校の自由画教育の指導者』	竹村 雄次
歴史研究所新刊紹介	『飯田下伊那史料叢書 近世史料編3 延宝二年 飯田御用覚書』	羽田 真也
	『聞き書き 飯田町のくらし8 ～昭和期飯田・下伊那の社会史～』	田中 雅孝
	『オーラルヒストリー3 生存の地域史をかたる』	田中 雅孝

歴史研究所 2021年度の記録	飯田アカデミア、飯田歴研賞 2021、共同研究成果報告、 歴研ゼミナール・ワークショップの活動報告、 スタッフ研究業績、歴史研究所活動報告	
	Matsuo Taseko's Networks:Poetry Meetings, The Hirata School(Ibukinoya),Political Action	Anne Walthall
	飯田・下伊那地域に関する歴史・民俗関係 図書・論文・ 研究ノート目録、投稿規定、編集後記	

### ⑦研究活動助成事業

飯田下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史全般の研究成果に対し、助成を行い地域史の研究を振興する。

申請件数 2 件、助成件数 2 件

研究課題	研究者名	備考
居▶職▶住～天竜峡における段階的移住の環境づくり	宮武杏香	明治大学
共育・興育・郷育－不登校児童の将来と高森町の未来の設計	藤田ちひろ	明治大学

### ⑧「飯田歴研賞 2022」表彰

飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰し、地域史研究の底辺を広げ、重層的な文化研究活動の環境を整える。 10月15日 於上郷公民館

部門	受賞作品	受賞者
著作賞	『木下紫水物語 全国から注目された竜丘小学校の自由画教育の指導者』	竜丘公民館 竜丘児童 自由画保存顕彰委員 会 飯田市立竜丘小学校 飯田市美術博物館
著作賞	『満洲移民・青少年義勇軍の研究－長野県下の国策遂行－』	本島 和人
論文賞	「歌誌『夕樺』と下伊那青年運動(1)～(6)『伊那』1096～1116号	清水 迪夫
奨励賞	『古老が語った我が歩み 語り継ぎたい「昭和・平成の記憶」』	座光寺 歴史に学び地 域をたずねる会

## (2) 教育活動

### ①飯田アカデミアの開催

市民を対象に、大学教育レベルの学術講座を開講。より多くの市民が聴講しやすいよう、日程やコマ数を調整し多彩な講座を用意する。

開催日	内容	講師	場所	参加人数
7月23日 24日	アイルランドの農村一揆	勝田 俊輔 (東京大学大学院教授)	飯田市美術博物館	会 15 On 9 延 24

10月1日	私流 歴史の本のつくり方 －編集者として考えてきたこと	井上 一夫 (元岩波書店取締役)	上郷公民館	会 26 On 9 計 35
11月5日 6日	明治維新と旧体制の廃棄	池田 勇太 (山口大学准教授)	伊賀良公民館	会 68 On17 延 85
3月11日	日本の町家と街並み －その地域性と普遍性－	大場 修 (立命館大学衣笠総合 研究機構教授)	松尾公民館	会 20 On 6 計 26

## ②地域史講座

開催日	内 容	担 当	場 所	参加 人数
4月16日	1674年、堀家飯田藩と社会 －『延宝二年飯田御用覚書』を読む	吉田 伸之 (所長)	飯田市美術博物館	44人
11月12日	南信濃の木材利用を考える －王子製紙以降の山里	講師 樋口 貴彦 (調査研究員) 報告 太田 仙一 (研究員) 報告 須永 次郎 (暮らしと建築社) コメント 金井溪一郎 (株)金井山素材	南信濃公民館	会 7 On 9 計 16

## ③講座：出前講座等

開催日	内 容	講 師	依頼先 会 場	参加 人数
4月30日	天保11年の大平街道争論一馬・ 駕籠稼ぎ、松川入、伝馬役	羽田 真也 (研究員)	伊那谷地名研究会 飯田市美術博物館	20人
5月12日	上郷の養蚕業・繭と生糸に生きた 人々の地域史	田中 雅孝 (特任研究員)	久遠の会 上郷公民館	25人
7月8日	歴史を知るおもしろさ	羽田 真也 (研究員)	飯田風越高校	40人
7月27日	養蚕が私たちの生活にもたらした もの	田中 雅孝 (特任研究員)	鼎歴史を学ぶ会 鼎公民館	20人
8月22日	川路の養蚕業について	田中 雅孝 (特任研究員)	川路文化セミナー 川路公民館	6人
10月13日	文化的景観を考える	福村 任生 (研究員)	旭ヶ丘中1年生 旭ヶ丘中学校	22人
11月13日	伊那谷の自然と文化 学びあい 講座 堀親昌の書状を読む	羽田 真也 (研究員)	飯田市教育員会 上郷公民館	21人

1月21日	「松下千尋日記」に戦争と平和を探る	田中 雅孝 (特任研究員)	飯田学輪大学 ムトスプラザ	20人
-------	-------------------	------------------	------------------	-----

#### ④ 歴研ゼミナール及び市民協働ワークショップの開催

歴史の研究方法を学ぶ通年講座で、参加者が「ともに学ぶ」ことを重視。

科目	内容	開催日	担当
近世史ゼミ	「飯田御用覚書」を読む	第2・第4 水曜日	羽田 真也 (研究員)
地域史ゼミ	Karen Wigen の英語による下伊那の研究書の輪読	第2 金曜日	太田 仙一 (研究員)
建築史ゼミ	地域建築史の学習と実践	第3 金曜日	福村 任生 (研究員)
近現代史ゼミ	「胡桃澤盛日記」を読む	第4 土曜日	田中 雅孝(特任研究員)
満洲移民研究ゼミ	満洲移民(青少年義勇軍)の実態と送出の背景及びその周辺についての検討	第1 土曜日	本島 和人(調査研究員) 齊藤 俊江(調査研究員)
思想史ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>山田風太郎『戦中派不戦日記』を読む</li> <li>『日本近代文学評論選昭和篇』大宅壮一「文壇ギルドの解体期」について</li> <li>『日本近代文学評論選昭和編』を読む</li> </ul>	第1・第3 水曜日	自主開催 (H24年10月以降) 元思想史ゼミ

#### ⑤ 古文書講座

ゼロから始める古文書 (美術博物館と協働)

美術博物館において年間20回行い、研究員が講師として10回担当した。

#### ⑥ 歴研ニュース発行

市民、研究教育機関等に対し、歴史研究所の研究教育概要を案内。

A4判4頁カラー刷り、年6回発行予定

#### ⑦ 歴史研究・職場体験学習受入れ

10月 竜東中学校職場体験 新型コロナウイルス感染防止のため中止

11月15日 総合研究大学院大学と飯田市の社会連携事業の一環で、同大学の教員と学生ら11名が来所し、研究所の活動や歴史学の方法についての意見交換会を行った

#### ⑧ 地域連携・支援

歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理と研究報告〔麻績史料館〕

ゼロから始めよう古文書講座 座光寺公民館にて月1回第3金曜日に開催

### (3) 市誌編さん事業

〔刊行物一覧〕 **太字ゴシック体**は令和4年度刊行

書名	発行者	発行年	判	頁数	カラー／モノクロ	価格(円)
飯田市歴史研究所 年報 1	歴史研究所	2003	B5	194	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 2	歴史研究所	2004	B5	232	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 3	歴史研究所	2005	B5	208	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 4	歴史研究所	2006	B5	218	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 5	歴史研究所	2007	B5	232	モノクロ	1,500
飯田市歴史研究所 年報 6	歴史研究所	2008	B5	303	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 7	歴史研究所	2009	B5	268	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 8	歴史研究所	2010	B5	292	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 9	歴史研究所	2011	B5	278	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 10	歴史研究所	2012	B5	310	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 11	歴史研究所	2013	B5	244	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 12	歴史研究所	2014	B5	271	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 13	歴史研究所	2015	B5	260	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 14	歴史研究所	2016	B5	290	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 15	歴史研究所	2017	B5	265	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 16	歴史研究所	2019	B5	236	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 17	歴史研究所	2019	B5	214	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 18	歴史研究所	2020	B5	198	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 19	歴史研究所	2021	B5	251	モノクロ	1,800
<b>飯田市歴史研究所 年報 20</b>	<b>歴史研究所</b>	<b>2022</b>	<b>B5</b>	<b>248</b>	<b>モノクロ</b>	<b>2,100</b>
地域史の現在 (年報別冊)	歴史研究所	2010	B5	130	モノクロ	800
下伊那のなかの満洲 1	満蒙開拓を語りつぐ会	2003	B5	160	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 2	満蒙開拓を語りつぐ会	2004	B5	238	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 3	満蒙開拓を語りつぐ会	2005	B5	253	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 4	満蒙開拓を語りつぐ会	2006	B5	276	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 5	満蒙開拓を語りつぐ会	2007	B5	273	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 6	満蒙開拓を語りつぐ会	2008	B5	219	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 7	満蒙開拓を語りつぐ会	2009	B5	244	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 8	満蒙開拓を語りつぐ会	2010	B5	264	モノクロ	800
下伊那のなかの満洲 9	満蒙開拓を語りつぐ会	2011	B5	367	モノクロ	1,000
下伊那のなかの満洲 10	満蒙開拓を語りつぐ会	2012	B5	354	モノクロ	1,000
資料集 時報・村報にみる「満洲」移民	歴史研究所	2006	A4	384	モノクロ	1,000
満洲移民 (※)	歴史研究所	2007	B6	269	モノクロ	1,200
宮下功「満洲紀行」	歴史研究所	2017	A5	502	モノクロ	2,000
聞き書き飯田町の暮らし 1	歴史研究所	2005	B5	108	モノクロ	500

聞き書き飯田町の暮らし 2	歴史研究所	2006	B5	132	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 3	歴史研究所	2007	B5	143	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 4	歴史研究所	2010	B5	133	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 5	歴史研究所	2013	B5	174	モノクロ	—
聞き書き飯田町の暮らし 6	歴史研究所	2015	B5	149	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 7	歴史研究所	2018	B5	215	モノクロ	700
聞き書き飯田町の暮らし 8	歴史研究所	2021	B5	217	モノクロ	800
飯田市松尾新井 森本家（大森本）文書	歴史研究所	2008	A4	371	モノクロ	2,000
松川町生田部奈 部奈一朗氏所蔵文書	歴史研究所	2011	A4	390	モノクロ	2,000
古島敏雄著作集 （復刻 全10巻）	歴史研究所	2005	A5		モノクロ	50,000
古島史学の現在	歴史研究所	2005	A5	214	モノクロ	800
史料叢書 近世史料編1 飯田町役用古記録	歴史研究所	2009	A5	544	モノクロ	2,800
史料叢書 近世史料編2 勤向書上帳	歴史研究所	2015	A5	256	モノクロ	2,000
史料叢書 近世史料編3 延宝二年 飯田御用覚書	歴史研究所	2021	A5	263	モノクロ	2,800
史料で読む飯田・下伊那の歴史 松尾大森本の家と周辺の社会	歴史研究所	2009	B5	62	モノクロ	700
史料で読む飯田・下伊那の歴史2 川路のあゆみ —近世から近代へ	歴史研究所	2021	B5	83	モノクロ	900
<b>史料で読む飯田・下伊那の歴史 3 山里 南信濃のあゆみとく らし</b>	<b>歴史研究所</b>	<b>2023</b>	<b>B5</b>	<b>84</b>	<b>モノクロ</b>	<b>1,300</b>
わたしたちの飯田線	歴史研究所	2005	B5	47	カラー	1,200
水引のまち飯田	歴史研究所	2009	B5	48	カラー	1,500
飯田・下伊那の災害	歴史研究所	2016	B5	48	カラー	1,500
オーラルヒストリー1 いとなむ はたらく 飯田のあ ゆみ	歴史研究所	2007	B5	262	カラー/ モノクロ	1,100
オーラルヒストリー2 戦争と養蚕の時代をかたる	歴史研究所	2016	B5	288	カラー/ モノクロ	1,100
オーラルヒストリー3 生存の地域史をかたる	歴史研究所	2021	B5	309	カラー/ モノクロ	1,700

みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史	歴史研究所	2007	B5	131	カラー	1,700
史料叢書 建造物編 1 本棟造と養蚕建築	歴史研究所	2011	A4	496	モノクロ	3,500
史料叢書 建造物編 2 農村舞台	歴史研究所	2012	A4	245	モノクロ	2,000
飯田・上飯田の歴史 上巻	歴史研究所	2012	B5	372	カラー	3,000
飯田・上飯田の歴史 下巻	歴史研究所	2013	B5	378	カラー	3,000
『描かれた上飯田 ー明治初期の地引絵図をよむー』	歴史研究所	2014	B5	74	カラー	1,800
飯田・下伊那の歴史と景観	歴史研究所	2019	A5	205	カラー	2,000
伊那谷の暮らしと住まい	歴史研究所	2019	A5	50	カラー	1,000
飯田下伊那の少年たちの満州日記	歴史研究所	2019	B5	117	モノクロ	300
飯田下伊那の少年たちの満州日記(改訂版)	歴史研究所	2020	B5	119	モノクロ	300

(※) 2007年発刊「満州移民」は第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞

#### ◆完売した刊行物

- ・飯田市歴史研究所 年報1 (2003年)
- ・わたしたちの飯田線 (2005年)
- ・資料集 時報・村報にみる「満洲」移民 (2006年)
- ・満州移民 (2007年)
- ・地域史の現在(年報別冊) (2010年)
- ・下伊那のなかの満洲 1～8 (2003～2010年)
- ・飯田下伊那の少年たちの満州日記 (2019年)
- ・伊那谷の暮らしと住まい(2019年)
- ・飯田下伊那の少年たちの満州日記(改訂版)(2020年)

#### (4) アーカイブズ保存活用事業

##### ①書庫内への文書保管作業及び史料公開

私文書では38件調査し、内11件を寄贈していただいた。また、14件約3,500点を目録整備して公開した。

##### ②非現用公文書の移管及び保管

廃棄対象となった文書(非現用公文書)のうち、歴史資料として必要なものを歴史研究所に移管し、目録作成作業を実施した。また、愛宕蔵の保管してある文書を整理し押洞書庫に移動した。

##### ③旧支所(旧役場)文書等調査・整理

地域の多様な団体と連携をとりながら、保管場所の状況確認を行った。

【資料】研究集会及び教育・普及事業（各種講座等）への参加者数〔4年度及び過年度の実績〕

区 分	研究集会	アカデミア	ワーク ショップ	地域史 講座	定例 研究会	ゼミナール	合 計
令和4年度 開催日数	1	4	3	2	6	87	103
令和4年度 参加者数	244	170	142	60	67	548	1,231
令和3年度 開催回数	1	2	1	1	7	76	88
令和3年度 参加者数	100	89	80	20	48	455	792
令和2年度 開催回数	0	2	—	4	7	62	75
令和2年度 参加者数	0	34	—	120	81	433	668
令和元年度 開催回数	1	4	—	4	5	84	98
令和元年度 参加者数	163	301	—	205	54	505	1228
30年度 開催回数	1	4	—	5	6	88	104
30年度 参加者数	156	165	—	141	85	460	1,007
29年度	88	130	29	204	91	598	1,140
28年度	201	209	39	246	168	581	1,444
27年度	127	175	20	118	138	1,022	1,600
26年度	189	131	149	125	103	1,281	1,978
25年度	251	160	60	159	66	951	1,647
24年度	222	161	—	125	246	1,098	1,852
23年度	163	132	—	163	54	525	1,037
22年度	196	167	—	112	147	463	1,085
21年度	170	302	—	112	62	455	1,101
20年度	71	225	—	182	130	530	1,138
19年度	104	127	—	148	43	430	852
18年度	266	167	—	—	80	(878)	(1,391)
17年度	118	161	—	—	—	(989)	(1,268)
16年度	134	153	—	—	—	(779)	(1,066)
15年度	170	167	—	—	—	—	337

※18年度以前のゼミ参加者数は登録人数と回数から算出

※22年度の研究集会には「伝統都市の比較史」共催円座を含む

※29年度以前は参加者数